

病院付き添い サービスについて

～身寄りがない方の支援～

豊見城市地域ケア推進会議

2025年3月21日

株式会社hareruya
代表取締役 大城五月

自己紹介



大城 五月

資格：介護福祉士、主任介護支援専門員、産業ケアマネ1級
ワークサポートケアマネジャー、国家資格キャリアコンサルタント
終活カウンセラー2級



理念「人生晴れるや～関わる人の明日と笑顔を共創する～」

主な事業

1. ケアマネジャー事業
2. 病院付き添いサービス
3. 仕事と介護の両立サポート

2016年会社設立後、居宅介護支援事業と病院付添サービスを通じて、県内の介護福祉分野に貢献すべく、事業展開してまいりました。社会課題や地域で起こる困りごとに対し、今後も社会資源の一つとして、同業他社や異業種・地域企業・行政等と連携し、明るい未来を創る一助となれるよう精進いたします。



サービス開始 の背景

身寄りのない方、地域での課題

病院受診に付き添う人がいない

身寄りのない方の課題

- 通院や入院時の付き添いがいない
- 医療機関の利用が滞ることで健康悪化
- 身近な支援者がいないことによる孤立

地域での課題

- 家族や知人に頼れない方の増加
- 介護施設や病院の負担増大
- ボランティアや支援者の不足

病院付き添い サービスとは

仕事や遠方などの理由から付添のできない家族に代わり、一人で受診が難しい高齢者や障がいのある方の病院受診に付き添うサービスです。



付き添いの流れ

受付



診察



会計



薬の受け取り



- 診察券、保険証、医療券など
- 預かり文書などの提出



- なるべく本人に話してもらう
- 大切な部分のメモを取る



- なるべく本人が支払う



- 留意事項メモを取る
- お薬手帳の活用

【動画】 病院付添サービス 内容

誰かにこんなことを
頼めないかな？

と思っている方へ

付き添いの心構え

利用者さんの不安を和らげる
コミュニケーション



- 優しい声
- 丁寧語

病院内でのマナー



- 他の患者さんへの配慮
- 大まかな情報把握

プライバシーの配慮



- 個人情報の取扱い
- 羞恥心などへの配慮

付き添い者 について

医療のプロでもない、同居家族でもない

**少しだけ介護の知識がある
孫や姪、甥の立ち位置で**

- なるべく本人に話をしてもらう
- 伝えきれていない部分をフォロー
- 看護師や医師、薬剤師の話を一緒に聞く
- 留意事項を本人と共有
- 次回の受診日時の確認・共有

病院付き添い利用のべ件数推移

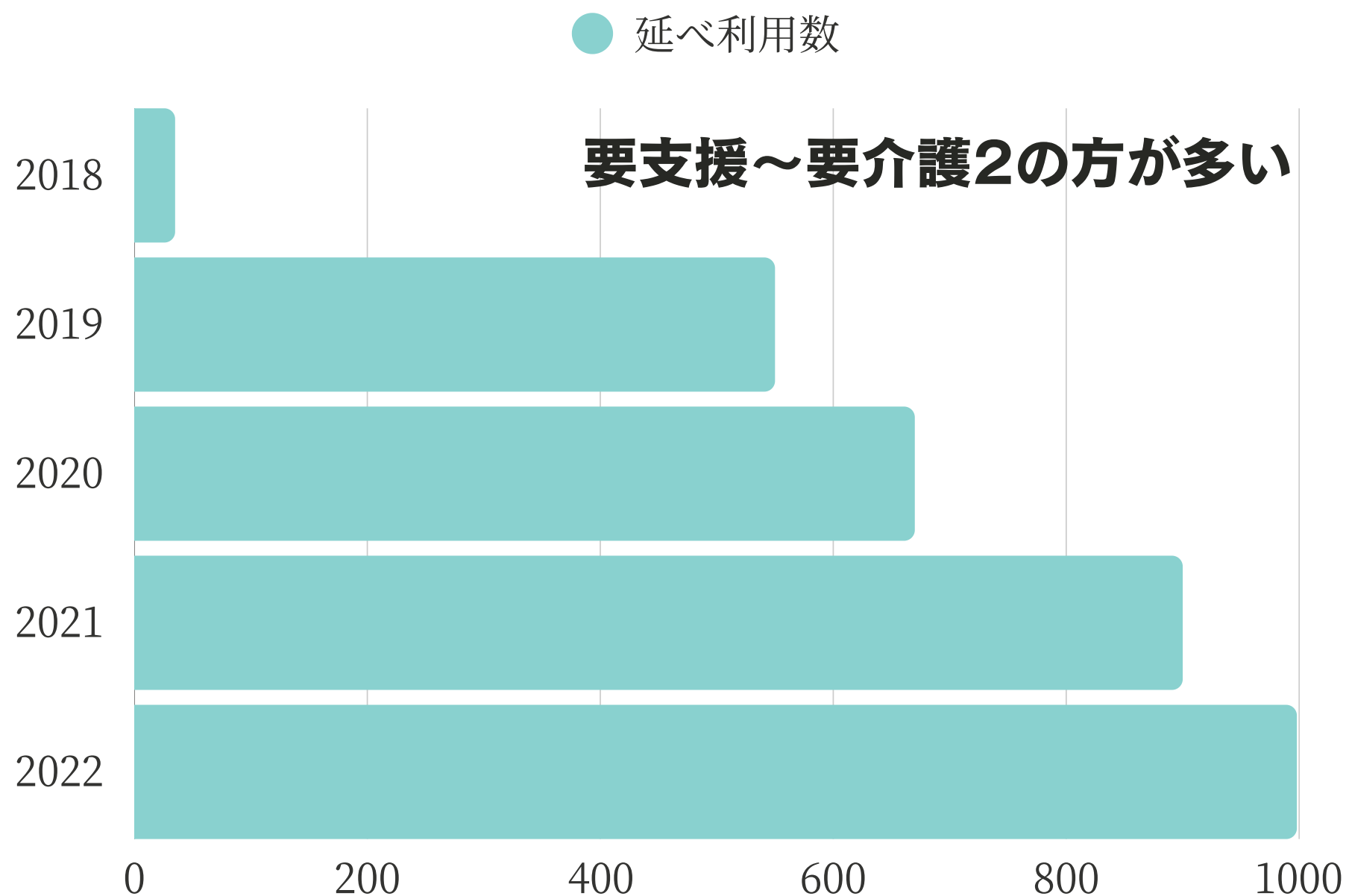


サービス利用者の受診に付き添うhareruyaのスタッフ(左)(hareruya提供)

お年寄りの通院を手助け 沖縄市の「ハレルヤ」の付き添いサービス 家族に代わり受診や会計



2020年7月30日 15:50



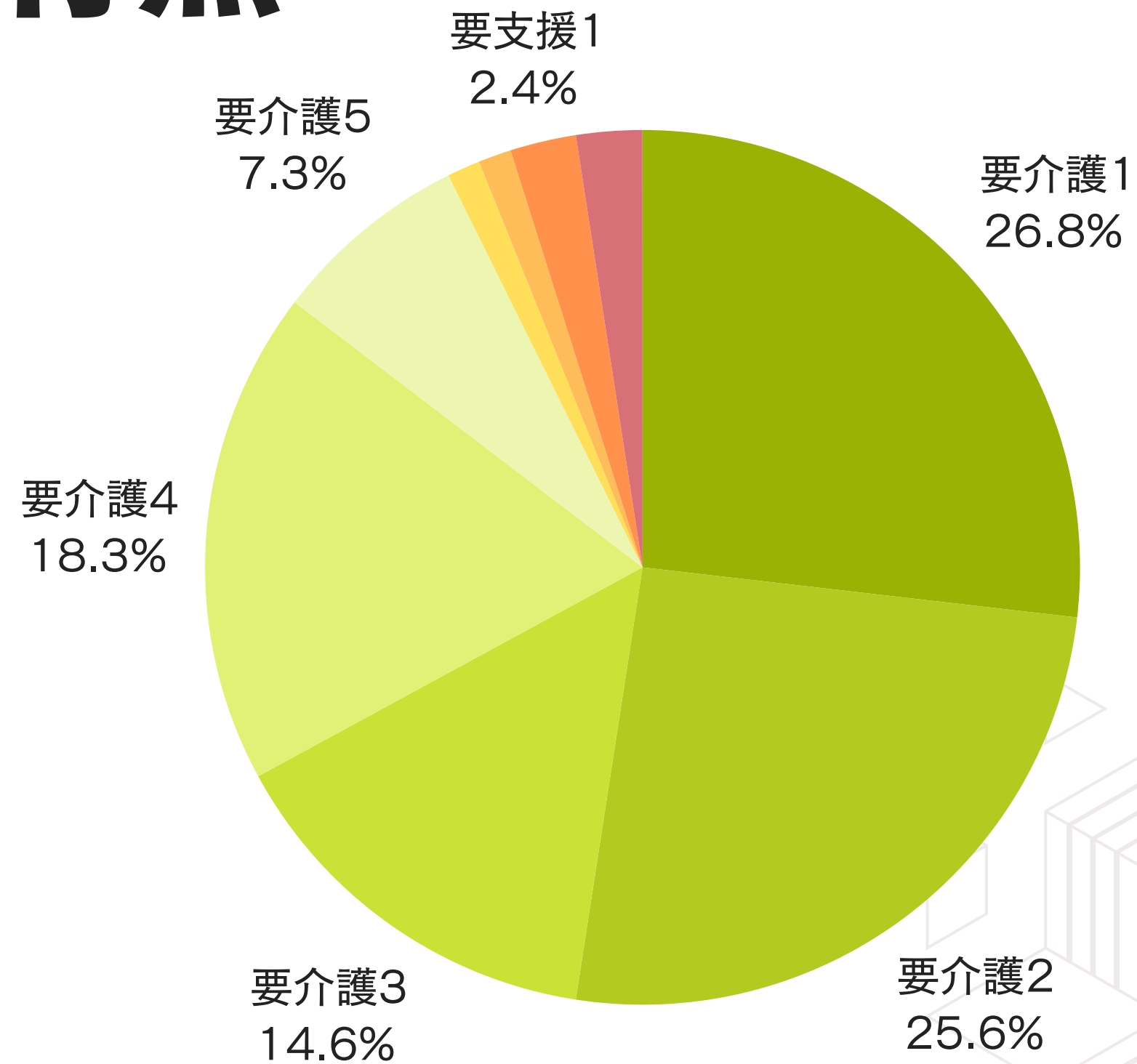
制度では賄えないニーズ
口コミで利用拡大

病院付添サービス利用者像

- 背景

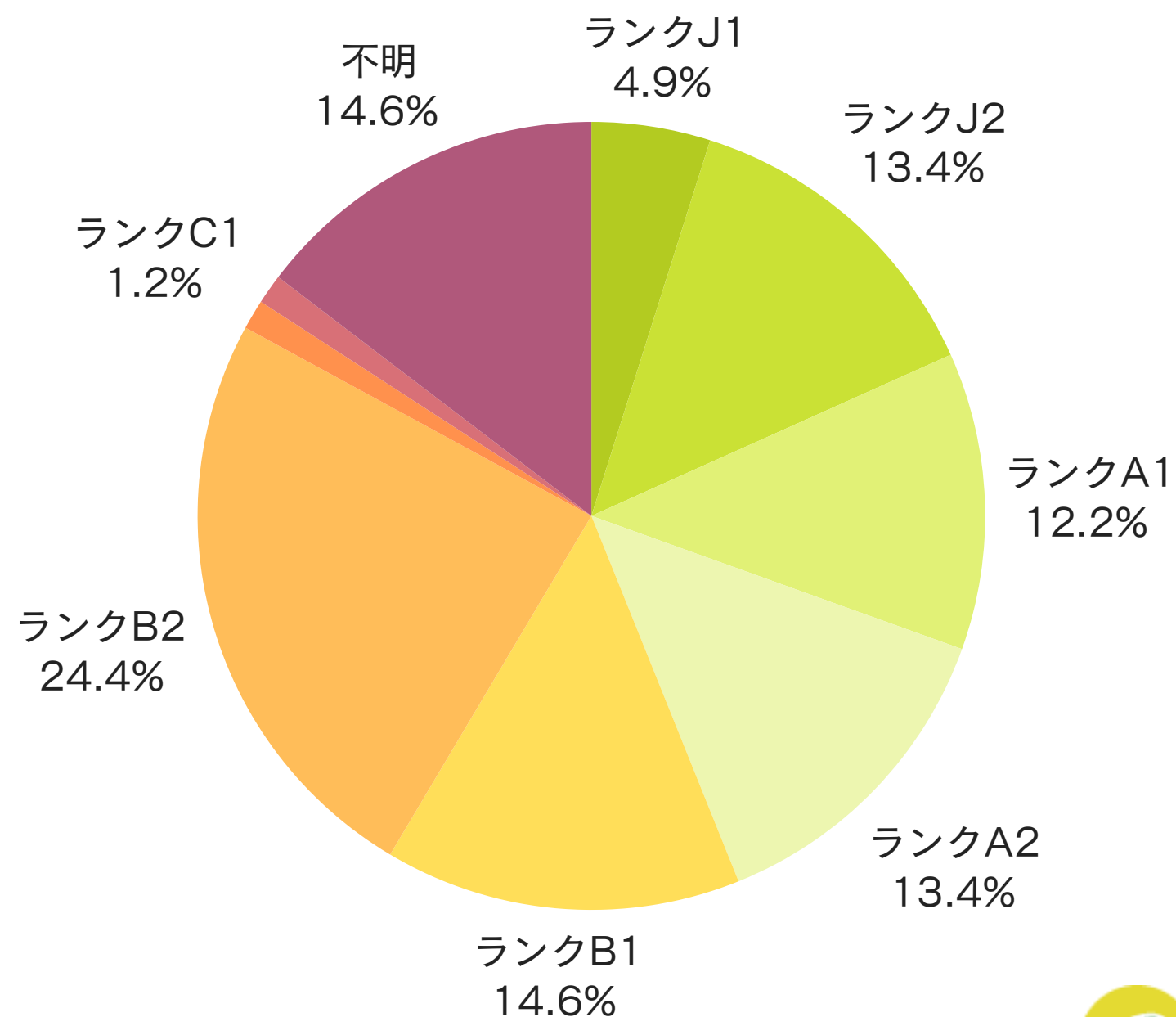
要介護認定の有無

対象：R2（2020）年
定期利用者82名内訳

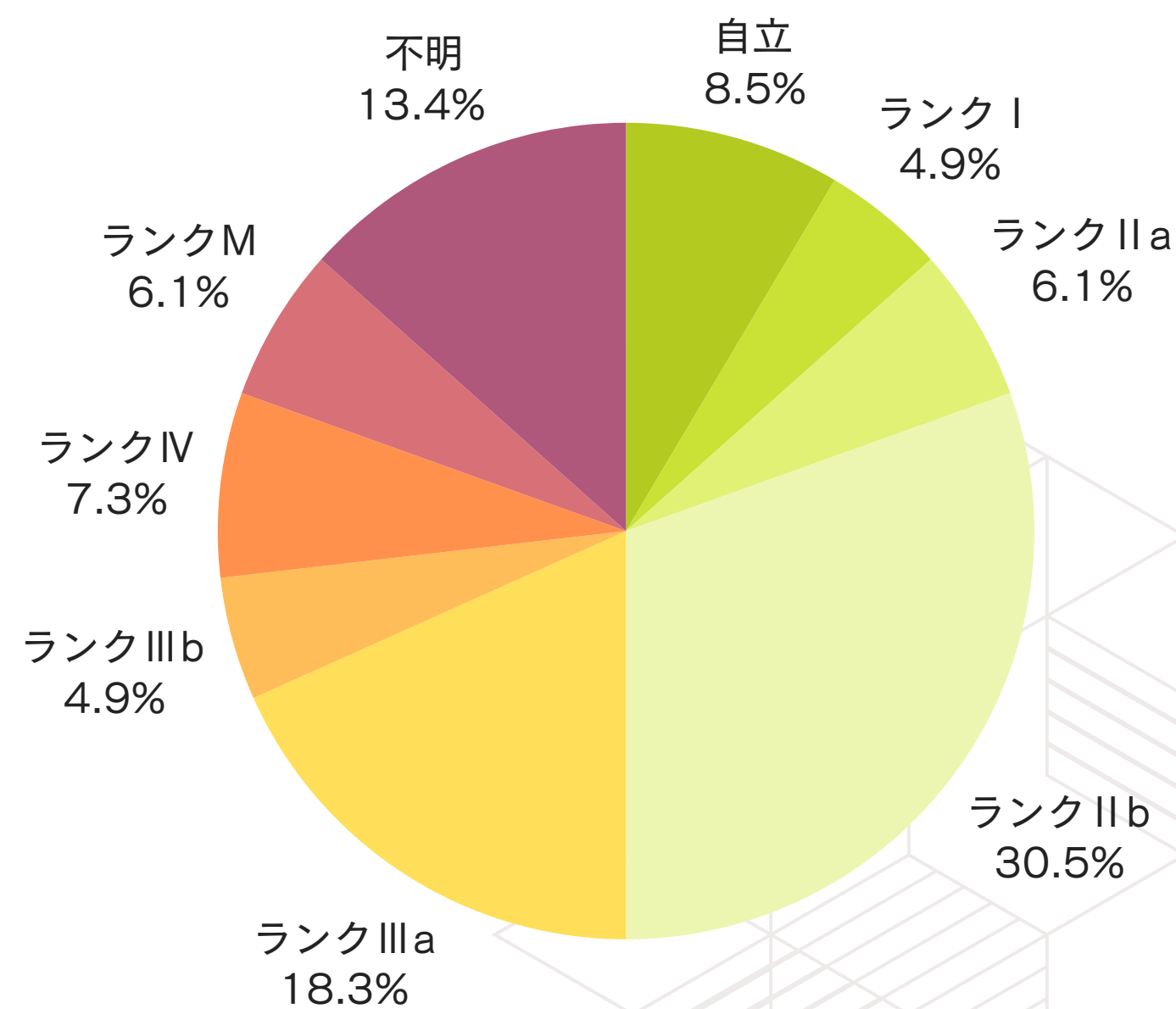


対象：R2（2020）年定期利用者82名内訳

障害高齢者の日常生活自立度 （寝たきり度）

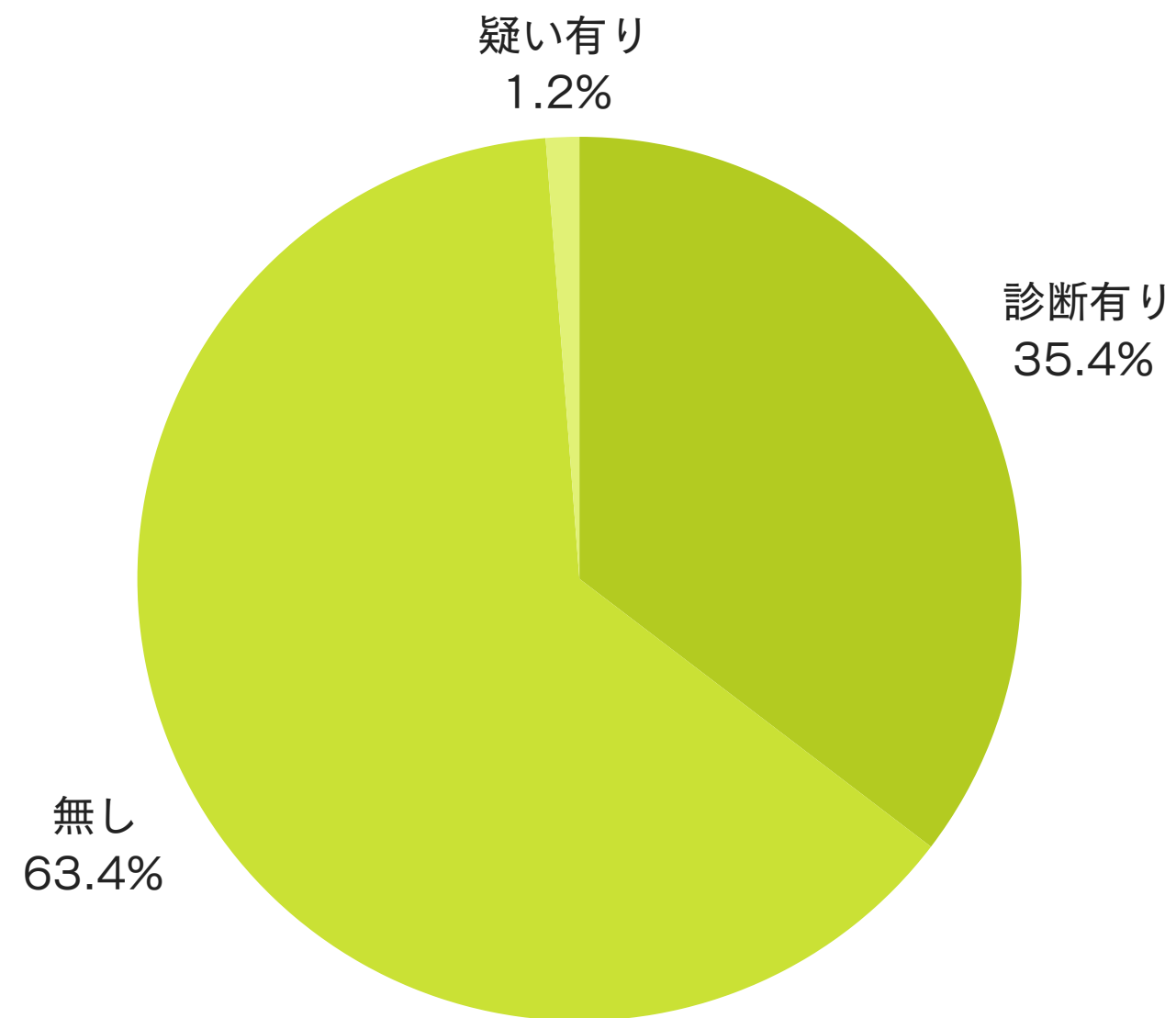


認知症高齢者の日常生活自立度

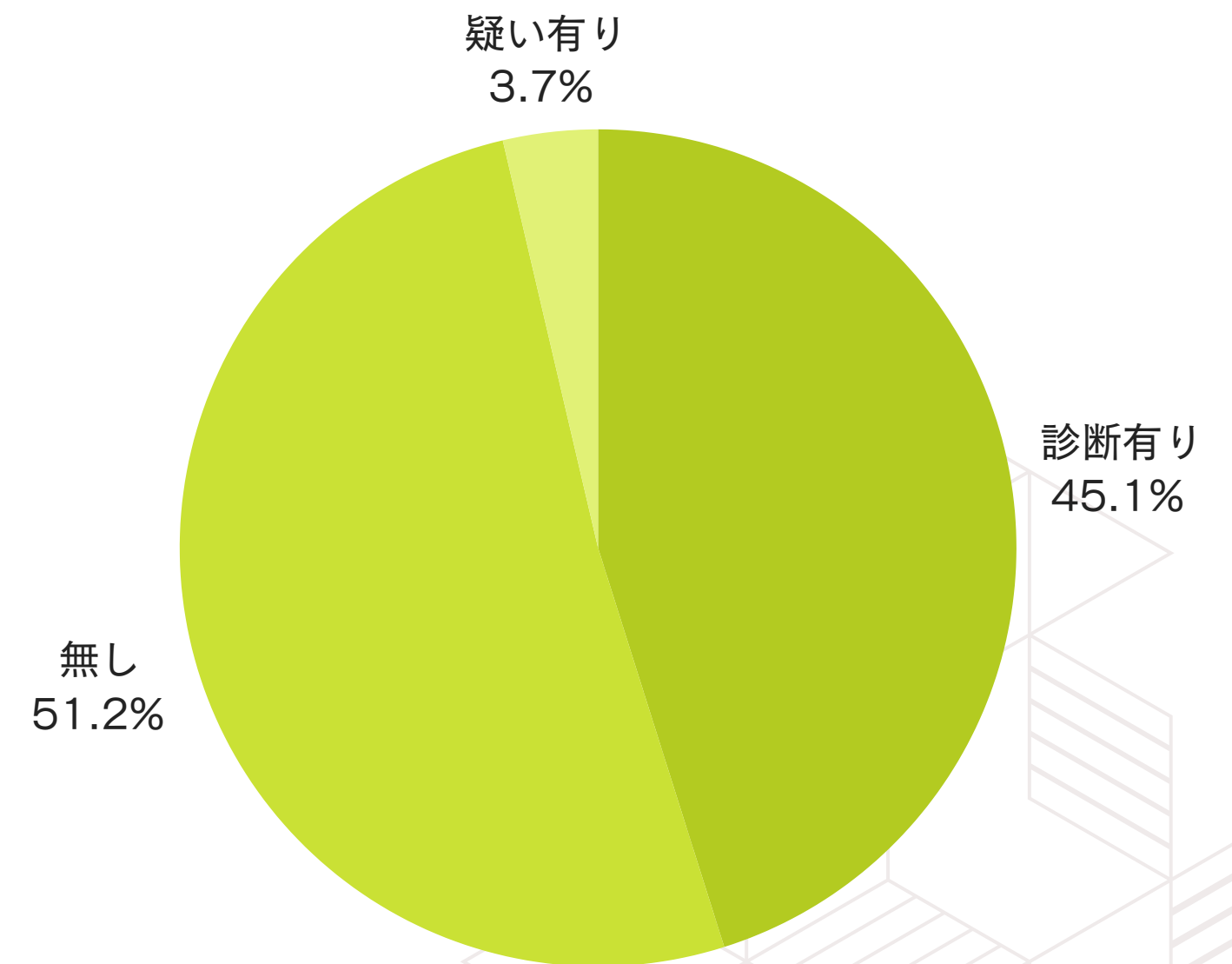


対象：R2（2020）年定期利用者82名内訳

精神疾患診断の有無

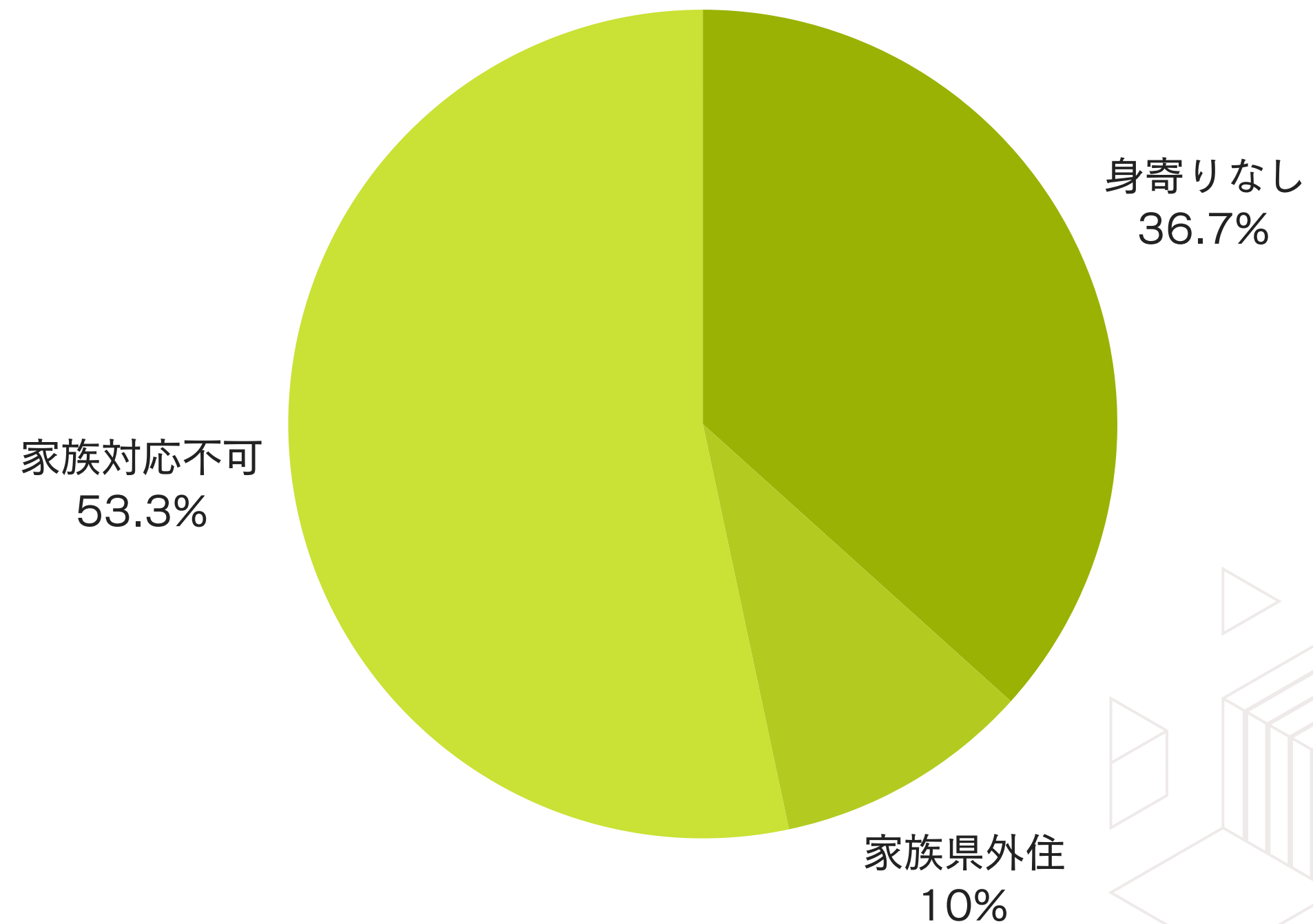


認知症診断の有無



認知症、精神疾患どちらでもない方の受診依頼理由

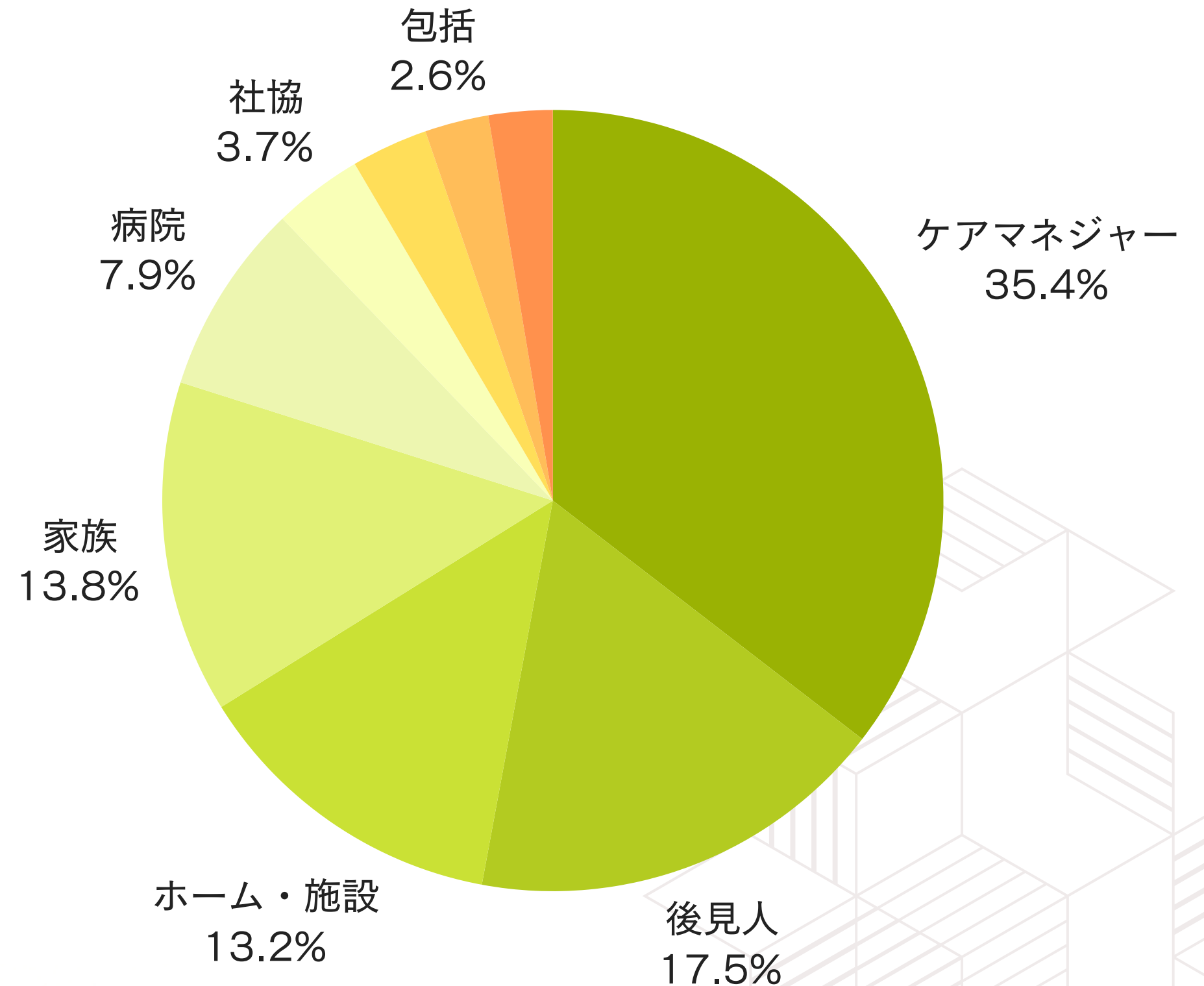
対象：R2（2020）年
定期利用者 30／82名



対象：2023年8月時点
終了者含む298名

依頼者（相談者）

要介護者が自立した生活を送るための制度やサービスなどの情報を提供する「ケアマネジャー」からの依頼が一番多い。

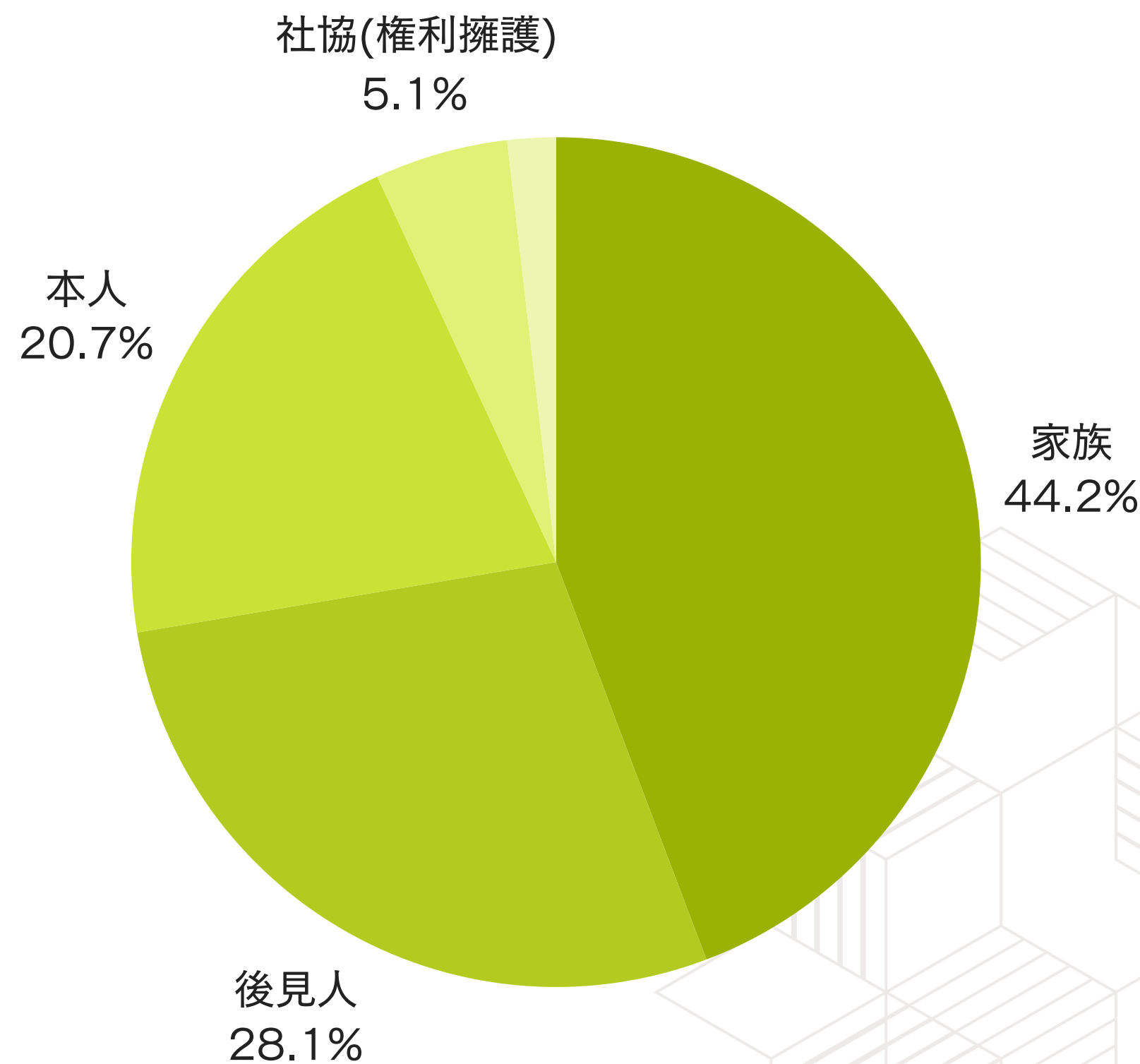


対象：2023年8月時点
終了者含む298名

金銭管理者

本人管理は20.7%（45／217名）

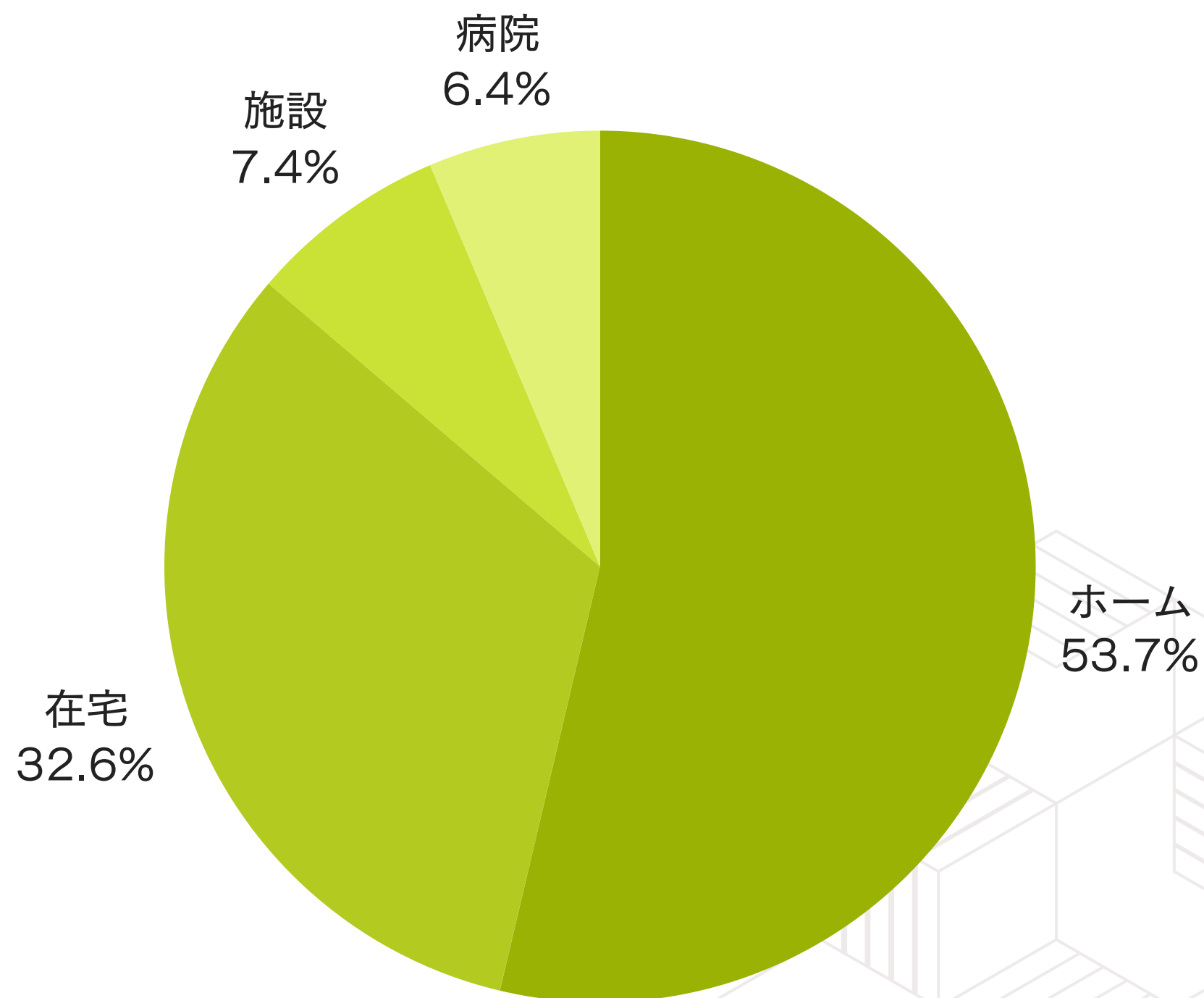
最も多いのは家族。
その次に後見人28.1%、権利擁護5.1%
本人以外が支払うことが多い。



対象：2023年8月時点
終了者含む298名

住まい

老人ホームに入居したからといって
すべての介護がおこなえるわけではなく、
定期受診や緊急時の受診など、
家族に対応が求められる。



病院付添いサービスを通じて分かったこと

- **病院付添いを利用する方は、要介護1.2が最も多く、日常生活動作において、歩行の不安定さや下肢筋力低下により一部介助を必要とする方、また、認知面の低下など、日常生活に何らかの課題を抱えてる方が多い。**
- **認知症の疑い有りを含めると認知症の方が約49%と半数を占めており、診断無しの中には、視覚障害や難聴障害をもつ高齢者もいるため、検査実施が難しいケースもあることがわかった。**
- **さらに、認知機能や精神的に問題が無い場合でも、介護を要する状態で、家族での受診が難しい方が多くいることがみえてきた。**

実際の事例紹介

ケース1

- 80代男性、独居
- 要介護申請なし
- 定期受診対応：本人、時々甥
- 課題：病状悪化傾向あり

ケース2

- 70代女性、独居
- 要介護2
- 定期受診対応：長女
- 課題：診療に一日かかる

ボランティア養成講座の経緯

講座の目的

保険外サービス

有償ボランティア＋
保険外サービス

無償・有償ボランティア

サポートの質を高め、サポーターの数を増やすことで利用する方にとって選択肢の幅が広がる。

企画の背景

おおきなわ の活動との連携

高齢や付き添いをしてくれる家族の不在など、さまざまな理由により病院受診時にちょっとした支援を必要としている方に対して、市民ボランティア支援を行うことで住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、地域で支え合う仕組みをつくることを目的とし開催。

今後の展望

- 地域で支える仕組みを広げていきたい
- 本日の議論で、よりよい支援策を一緒に考えたい



1.地域との連携強化

地域包括支援センター・医療機関との協力。

2.ボランティアの拡充

講座を定期開催し、担い手を増やす。

3.他自治体との連携

他の地域でも同様の取り組みを展開。

ご清聴ありがとうございました

